

# 医療タイムス

週刊医療界レポート

2013.12/16 No.2138

**特集** 医療経営ステップアップフォーラムin東京

## 診療報酬改定と2025年に向けた 新しい病院経営の将来を考える



### 特別企画

HISフォーラム2013in岡山

「地域医療は、広報によって癒される」をテーマに開催

BHI賞 2013 最優秀賞は飯塚病院

### タイムスレポート

どうなる!?医療事故調査制度  
「院内調査」の機能強化が鍵を握る

### Top News

勤務医の負担軽減、新たな評価へ 中医協総会  
維持期リハ、経過措置の延長を提案 中医協総会



# 医師だからできる経営実践術

## 勝つための必須項目 その30

### 製品開発

今回は“製品開発”について書きたいと思います。製品開発と日常診療とは、やや縁遠い印象を受けますが、実は密接に関係しています。皆さんも診察をしていて、「こんなのがあったら便利だな」「こうすればもっと効率的なのにな」といった感想を持つと思いますが、そういう感覚です。

私は最近、医療に直結したユーティリティ（役に立つもの）の開発にも携わっています。まずは、アイデア創出から始まるわけですが、特に意識してアイデアを絞り出すといった作業はしません。日々の診療や日常で不便や疑問を感じたことを記憶にとどめる程度です。こうした日常の不便さや非効率性を解消するための情報収集やユーティリティを時間があるときに探すわけです。運よくすでに市販化されているユーティリティを探し出せば問題は速やかに解決しますが、探し出せなければ「自分で作り出す」か「他人に作ってもらう」ことになります。時間的にも費用的にも前者の可能性は低いです。そこで、「他人に作ってもらう」ことになります。つまり、企業とのコラボレーションが必要になってきます。

次に、「既存技術で解消が可能か?」「新しい技術開発が必要となるか?」ということが問題になります。新しい技術開発には多額の研究費用や開発費用が発生しますし、時間もかかります。どちらかといえば既存技術で解消可能なことを最優先に考えます。既存技術も組み合わせによっては新しいカテゴリーやユーティリティになる可能性があります。身近な例がiPhoneです。iPhoneのタッチパネル技術は、それほど斬新的な技術ではなく、パソコンやPDAなどの製品、さらには携帯にも頻繁に使われている技術です。見た目では、iPhoneはいくつかの既存技術を組み立てて、既存のモジュールを組み合わせた製品にしか見えないかもしれませんが、しかし、タッチパネル技術を含めユーザー体



放射線科専門医  
(株)SEM medical solution代表取締役  
医療法人社団南星会理事長（湘南な  
ぎざ診療所、湘南ライフタウン診療所、  
湘南なぎざ訪問看護リハビリステーション）

しまたいじ  
**島田栄治**

1969年生まれ、1994年東邦大学医学部卒業、国立病院機構災害医療センター放射線科医長を経て、2005年(有)SEM medical solution設立。2007年湘南なぎざ診療所開業。

験も念頭に置きながら製品開発を展開してきた特徴が見られます。つまり、既存技術を利用するからといって決して古い、時代遅れなものとはいえないわけです。

企業とのコラボレーションで大事なものは、「思いついたアイデアが市場で受け入れられるのか?」「ニーズがあるのか?」ということです。自分では画期的なアイデアや仕組みだと思っけていても、それを利用する人が本当にいるのかが肝心です。誰も見向きもしないアイデアを製品化しても意味がありませんし、そもそもコラボレーションしてくれる企業がないでしょう。企業も、ある程度の費用をかけて製品化するのですから、投資費用やコストを回収するためにも、利益を出さなくてはなりません。そのことを踏まえた上で、創出したアイデアでの実現性を判断する必要があります。

当然、自らもリサーチする必要があります。コラボレーションの相手を見つける方法は、まずは、自ら行動を起こしてコラボレーション可能な相手にアプローチしなくてはなりません。知人からの紹介やインターネットでの検索、雑誌、TVなどのメディアからの情報などさまざまです。実際、企業とのコラボレーションが叶わないとしても、一定の関係が築ければさまざまな情報を交換することもできますので、新たなヒントやアイデアの創作につながります。他の製品の共同開発につなげることもあるでしょう。私は現在、いくつかの案件を同時進行しています。もちろん企業からのアプローチも積極的に、喜んで、受けています。思い立ったら即「行動」。しかも、「あきらめずに」が大切です。